

ツルガ薬局 漢方症例

《 46歳 男性 病院の解熱剤が効かない 微熱と意識もうろう 》

■ 2012年3月9日

「微熱が続き、病院の解熱剤を服用しても一向に熱が下がらない、もう1週間以上になるが会話ができないほど意識がもうろうとしてきている」

奥様が旦那さんの処方せんを持参され相談。今日もA病院に行ってきたのだが、同じものが出ているとのこと(処方薬はカロナールとムコスタが1日3回で出ていた)。聞くと、今日のA病院を受診する前に、すでに3回他の病院へかかっていて、風邪だと言われ結局同じような薬しか出してもらえず、飲んでも効かない。旦那さんの様子が会話が出来ないうらい、意識がもうろうとしてきて大変心配とのこと。

詳しくお聞きすると、

- ・ 1週間以上熱が続いている(今日は37.5℃)
- ・ めまいがする
- ・ せき、鼻水、だるさ、少し寒気もあり

- ・ 目を見て会話が出来ず、意識がもうろうとしている
- ・ 体の中が熱いのに汗が出ない
- ・ 口が粘つく
- ・ 眠い
- ・ 食欲なし
- ・ 病院でのレントゲン検査などでは異常は無し
- ・ 風邪薬や解熱剤を服用しても 37.5℃が 37.1℃~37.0℃になるくらいで全然楽にならない
- ・ のどの渇き無し、おしっこはあまり出てない
- ・ 5年前から腸閉塞予防にと言われ病院で「大建中湯」と「六君子湯」をもらいずっと服用中

【考察】

通常は病院での風邪薬や解熱剤を服用すれば、汗が出て熱が下がるのが普通であるのに、解熱剤(カロナール)を飲んでも熱が下がらないほどの体の状態であるということ。

そして汗が出ない、寒気がする、目を見て会話ができないくらい意識がもうろう、ということから、血液を温め体全体の陽気を回復してあげる必要が

あることから「四逆加人参湯」をベースに、めまいとだるさ、口の粘り、そして意識もうろうを「煩躁(はんそう)」として捉え、茯苓を加味して「茯苓四逆湯」に決め、3日分処方。

また、1週間以上という経過と今の状態、そして食事(栄養・エネルギー・体の原料)が取れていないことから、牛黄と人参、アミノ酸の入った「コンクレバンゴールド」を食事代わりに服用していく必要があったので、漢方と一緒に飲んでもらうよう伝えた(10本購入)。

【経過・結果】

■ 2日後 (3月11日昼過ぎに奥様が来店)

熱が36℃台に下がり、夕方から熱が上がる事が無くなった(病院でもらった解熱剤は飲んで下らないのが分かっているので、一回も飲んでいない)。汗もおしっこも出るようになった。何と云っても、目を見て会話ができるようになったことがうれしい。すごく調子が良いとのこと。せきと鼻水も、少しまだあるが9日よりはずいぶん楽になっている。

■ 3日後 (3月12日午後に電話)

昨日の夜に少し熱が出たが、今日の朝には熱も無く、本人も元気で、明日

には会社に行くつもりでいるみたい(3月1日から会社をずっと休んでいるので)。会社へ行こうと思えるくらい回復している様子。

もう漢方は飲まなくても寝て養生すれば良くなると伝えたが、奥様が念のためにとわれ、同じ処方2日分処方。